

(1) 第6学年の実践例

《視点5》ICT活用を促す授業実践の開発

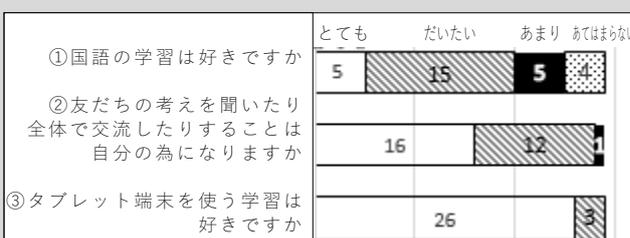
国語：単元名 町のよさを伝えるパンフレットをつくろう
「ようこそ私たちの町へ」(光村図書 6年)

単元について

- 本教材は、「自分が住んでいる町に訪れた人に、町のよさやおすすめの場所をパンフレットで伝える」という設定となっており、単なる紹介ではなく、積極的な働きかけをもつパンフレットを目指している。さらに、情報を取捨選択し、表現技法を工夫したり、文章全体の構成を考えたりして、主体的に書くことに関わることができる教材である。
- 「人に薦める」という目的を掲げることで、子どもたちはより読み手を意識し、構成にこだわり学習を進めていくことができる。住んでいる町を改めて見直す機会となり、町のよさを効果的に伝える方法を考え、実践していく力を育むことができると考える。

児童の実態(29名)

- 右は6月の意識調査の結果である。3割の子どもたちが国語への苦手意識を持っていることがわかった。友だちの考えをもとに学習することに関しては、有用感を感じている児童が多いことから、ペアやグループ学習を取り入れ、対話のよさを実感させることが有効であると考えられる。また、タブレット端末に対する学習意欲が非常に高いことから、効果的活用を行うことが主体的な学びにつながると期待できる。



単元の目標

- ◎パンフレットの特色をつかみ、集めた情報を整理し、文章全体の構成や、見出しやリード文、解説文などを工夫することができる。
- 引用したり、写真や図を用いたりして、伝えたいことが明確になるように書くことができる。
- パンフレットについて、目的や構成の観点から助言し合うことができる。

思考力・判断力・表現力を育む手立て

- ・「甲佐町のよさを伝える」というテーマのもと、取材場所を子ども自らが決定し、実際に取材に行くことで、学習活動への意欲を高める。
- ・甲佐町のパンフレットを参考にさせ、よさを見つけ交流し合うことで、読み手を意識した効果的な表現技法や構成についての考えを深める。
- ・学習形態を工夫し、思考の場を広げていくことで、多様な表現方法に気付かせ、深い学びにつなげる。
- ・効果的な表現技法等は常時掲示し、パンフレット作成の手立てとする。

ICT活用の手立て

- ・取材では、タブレット端末を使用し、子どもが自分で対象物を選び、主体的に情報活用を行えるようにする。
- ・新聞作成ソフトを活用し、基本的な新聞記事の書き方をつかませる。
- ・子どもたちの作成した記事は電子黒板でその都度紹介し、相違点や気付きを全体で共有させる。互いのよさを意識することで、協働して学ぶことのよさを実感できるようにする。
- ・総合的な学習の時間を活用し、文字入力や写真の取り込みの方法等、タブレット端末の技能の習得を積み重ねておく。

指導計画(13時間取り扱い)

1次(1・2時)	2次(3~12時)	3次(13時)
<ul style="list-style-type: none"> ○甲佐町の好きな所や特徴を話し合う。 ○パンフレットの特徴や形式を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○パンフレットの構想を練る。 ○取材計画を立てる。→取材に行く。→情報を整理する。 ○よりよい記事の書き方や構成について考える。 ○タブレット端末で下書きをする。→推敲し、仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○パンフレットを読み合い、互いに助言し合う。

授業の実際(8/13時間目)

①つかむ 視覚化と焦点化で、課題に対する興味関心を高める

導入時、パンフレットの共通課題を電子黒板で示した。一部だけ見せる、または拡大して見せることで、対象物への興味関心が高まり、パンフレット作成への意欲付けにつながった。

主体的な学び



②考える 考えの見通しを板書し、一人学びの充実を図る

パンフレットをレベルアップする工夫を具体的に理解させるため、記事の一部分を取り出し、文章のよさを全体で確認した。板書が、記事と文章を結びつけて考えたり、工夫点を意識しながら書いていくことに役立った。

主体的な学び



③深める 対話から深い学びへとつなげる学習形態の工夫



対話的な学び

一人学びで作成したシートをもとに班学習を行い、一つの記事へ仕上げた。

①班学習→②班同士で交流発表→③電子黒板での全体交流と、学習形態を変化させたことは、多様な対話が生まれるきっかけとなった。

さらに電子黒板で拡大化、焦点化させることで、子どもたちは自分たちの記事と比較し、相違点やよさに着目して話し合いを深めていた。

深い学び



④まとめる 達成感を持たせるタブレット端末の活用

作成した記事は、タブレット端末で編集を行った。検討した記事を活用できるため、子どもたちは意欲的に入力作業に取り組むことができた。



【考察】

- 導入における電子黒板の活用は、課題に対する視覚化と焦点化を図る上で有効だった。一部分だけ提示したり、拡大したりできるので、学習への興味関心を一気に高めることができた。
- 全体交流において、班で作成した記事を電子黒板で提示したことは、課題の共有化につながった。良い点を推薦してもらった班が全体発表を行うことで、発表者も意欲的に自分たちの記事について説明する姿が見られた。
- 全体交流での学びは、発表の時間が大体を締めていた。深い学びを育むためには、話し合いの視点を設けたり、考えを焦点化させたりするための手立てや発問の工夫が必要である。

